

『ISPSハンダマッチプレー選手権』

国内男子ツアーで14年ぶり開催

先日、都内で大会概要が発表された『ISPSハンダマッチプレー選手権』。ゴルフの国内男子ツアーでは14年ぶりとなるマッチプレーのトーナメントについて、大会主催者の半田晴久・ISPS会長の思い、参戦予定の谷原秀人プロらの意気込みを交えて会見の様子をレポート！

8月1&2日、9月6&10日、千葉県・浜野GCで

(左から)藤本佳則、半田晴久・ISPS会長、谷原秀人



藤本佳則「しっかりと勝っていく」

谷原秀人「目の色変えて…」

半田晴久・ISPS会長の思い&選手の意気込みレポート

日本ゴルフ界の転機

試合は1対1で争われるため、通常のトーナメント以上に相手選手との駆け引きや戦略が必要とされるゴルフのマッチプレー。今年、ISPSハンダマッチプレー選手権が、14年ぶりに開催される。大会を主催する一般社団法人ISPSは、さまざまな競技への支援を通じて国内外で幅広い社会貢献に取り組んでいる組織。2015&16年に「ISPSハンダグロバーバルカップ」が2シーズン連続で開催されたが、こちら

はストロークプレー方式のマッチプレー選手権。昨年までとは試合形式が異なる。ISPSは、さまざまな競技への支援を通じて国内外で幅広い社会貢献に取り組んでいる組織。2015&16年に「ISPSハンダグロバーバルカップ」が2シーズン連続で開催されたが、こちら



「ISPSは、さまざまな競技への支援を通じて国内外で幅広い社会貢献に取り組んでいる組織。2015&16年に「ISPSハンダグロバーバルカップ」が2シーズン連続で開催されたが、こちら



ショーン・ノリス



小平智



金康泰

GATEWAY

半田会長「ゴルフ界全体の発展のために」

ちなみにチケットは、3回戦以降の9月6&10日が7月下旬からインターネット上で販売予定。さらに8月1&2日の1・2回戦は一般非公開だったが、1日50台、2日100台の一般客用駐車スペースに制限はあるものの、事実上無料で観戦が可能。しかも、今後のゴルフ観戦のテストケースとして、クラブハウスへの出入りもでき、コースでは通常のトーナメントでは張られている観戦用ロープもないという。

なお、会見にはISPS所属の2人の男子プロも出席。今年3月、米テキサス州で行われたWGCデルトクロノジズマッチプレーで世界ランク1位のダスティン・ジョンソンをあと一歩のところまで追い詰めた。最終的に4位入賞を果たした谷原秀人は、「優勝すれば賞金王がグッと近づいてくる。選手はこの大会をメインに狙ってみたい。目の色を変えてくるはず」と選手自慢で分析。さらに「マッチプレーのよきな戦いを経験すること、日本の



日本ゴルフ界にとっては大きな転機となりそう。ISPSハンダマッチプレー選手権。開催が今から楽しみです。

PROFILE

はんだ・はるひさ 1951年生まれ、兵庫県出身。ISPS会長をはじめ、ISPS HANDA PGA ツアー・オブ・オーストラリア総裁、世界ブラインドゴルフ総裁などスポーツ界、ゴルフ界に尽力。また、多数の事業を手掛ける実業家でもあり、深見東州の名義で歌手や画家、作家としても幅広く活躍。スイス時計のオーナー社長でもある。



半田会長と大西久光JGTO副会長

ように、ちょっとだけ出ベンにしました。来年は2億2000万円にするかもしませんが、ユーモアを交えながらも「すべてはゴルフ界全体の発展のため」と半田会長。ゴルフへの愛情が感じられるコメントだ。そんなISPSハンダマッチプレー選手権の出場選手は、過去1年半のツアー獲得賞金などをとに設定した独自の賞金ランキングの上位103名と2017のISPSハンダマッチプレーの優勝者を含めた全104名(3回戦からのシード8名+1回戦出場者96名)で、試合数は106マッチ。会見に同席した大西久光JGTO副会長も「知る限り世界でもない」と話すほどで、8月と9月の2回に分けて行うのも通常のプロゴルフトーナメントではあり得ない前代未聞の規模だ。